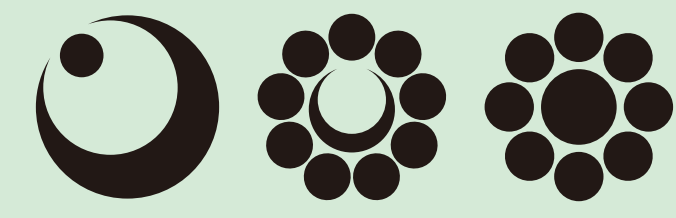


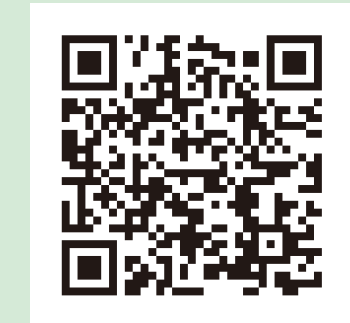
千葉氏ゆかりの地



浜野城跡

Site of Hamano Castle

千葉市中央区浜野町



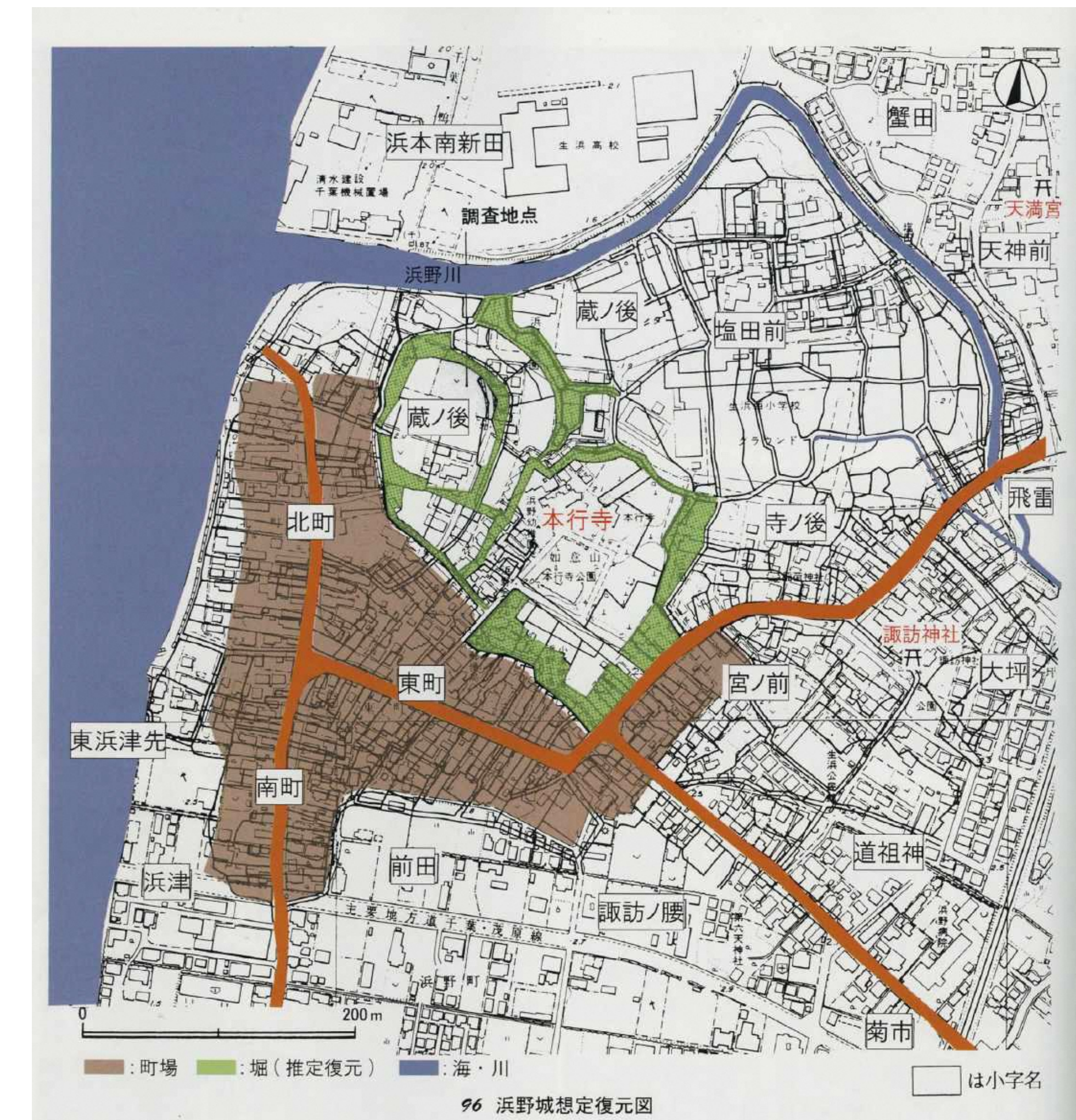
千葉氏ポータルサイト Foreign Languages

浜野は東京湾を臨む地で、北には浜野川(塩田川)が流れ、海岸沿いに南北に貫く街路に北・南・東の三つに分かれる宿町^{しゆくまち}が形成されました。発掘調査の結果、古墳時代には、この地域が陸地化していたことが明らかとなり、海岸近くの安定した土地に湊が形成されたことがうかがえます。また、土気・東金両酒井氏の祖酒井定隆と本行寺の開祖日泰^{にったい}にまつわる伝説(※)は、この地が中世から品川と航路で結びついた湊であったことを反映したものと考えられます。

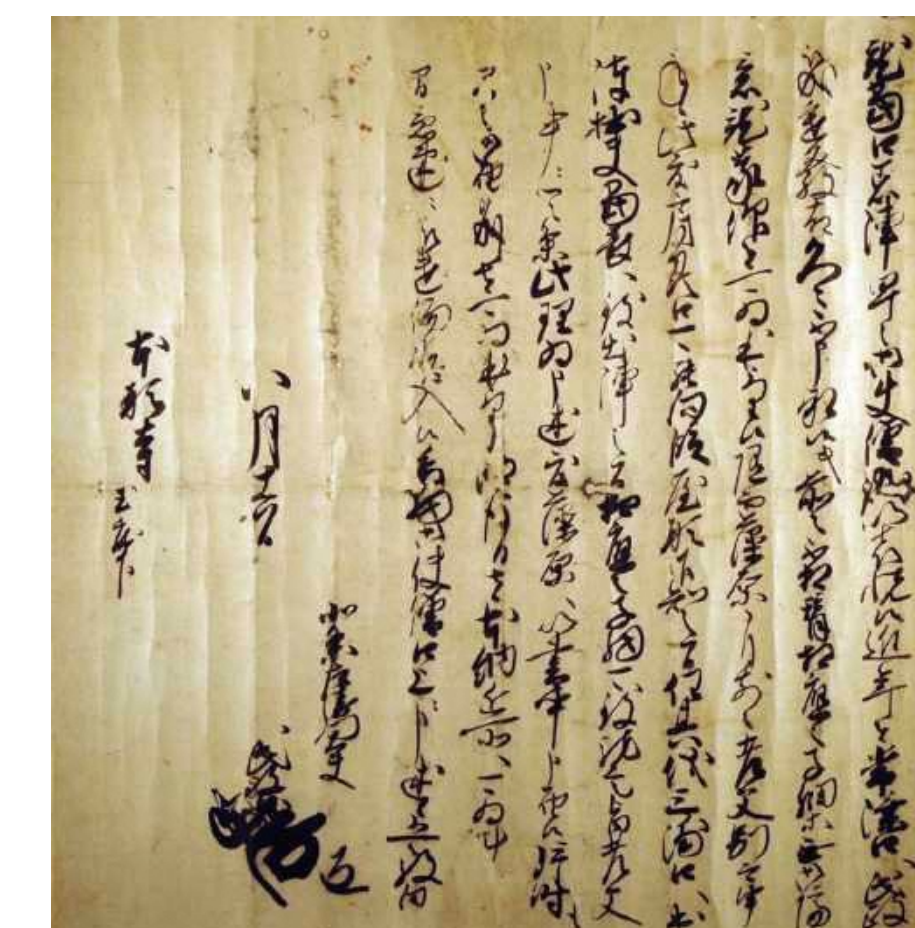
江戸時代にこの付近を治めた生実藩の米蔵「浜御蔵」が町場の北側に置かれたましたが、「浜野村地先濤絵図」(宝暦5年(1755))には御蔵東側の三日月型の土地に「城ノ内」と記載があり、中世にはここが城であったことを示しています。これを浜野城跡と呼びますが、その城域には隣接する本行寺を含んでいたと想定されます。この城跡で注目すべき点は、過去の資料や発掘調査の結果などから、北側の浜野川に開口する堀の復元が可能なことです(堀の推定復元箇所は『浜野城想定復元図』の黄緑色網掛け部分)。この部分は城の防御施設であったほか、船の係留や荷揚げ場を兼ねた可能性があります。出土遺物は15世紀後半から16世紀前半のものが主であることから、浜野城は、千葉氏の重臣である原氏が生実城主であった時期に機能していた城であることが判明しました。

浜野が内房の重要な湊として登場するのも、原氏が生実城に本拠を置いたことが影響していると考えられます。永正6年(1509)に原氏の館を訪ねた連歌師宗長が本行寺を宿舎としていたことから、生実城と浜野との密接な関係をうかがい知ることができます。また、この地域は海上交通だけでなく、土気や茂原へ向かう街道の交通の結節点でもあったことから、陸海の交通の要衝である浜野の湊が浜野城として城郭化されたものと考えられています。

(※)海路で酒井定隆が品川から浜野に向かう途中に嵐にあった時、同船していた日泰が経を唱えて嵐を鎮めました。定隆は日泰に帰依し、「自分が城主となった時は、日泰を迎え、領内ことごとく日蓮宗とする。」と誓ったと伝えられています。



浜野城想定復元図(『千葉市の戦国時代城館跡』より)

北条氏繁書状
(千葉市指定文化財)(本行寺蔵)

浜野村地先濤絵図・部分(個人蔵)

浜野地域が陸海の交通の要地であったことが示されている



千葉市教育委員会